

日本山岳会創立 120 周年
グレート・ヒマラヤ・トラバース

日本山岳会インドヒマラヤ横断踏査隊 2024 年秋
Indian Himalaya Traverse of The Japanese Alpine Club Autumn 2024

仮報告書



カンヤツェ II 峰 (6240m) 山頂 (後方は I 峰 6400m)

主催：公益社団法人 日本山岳会

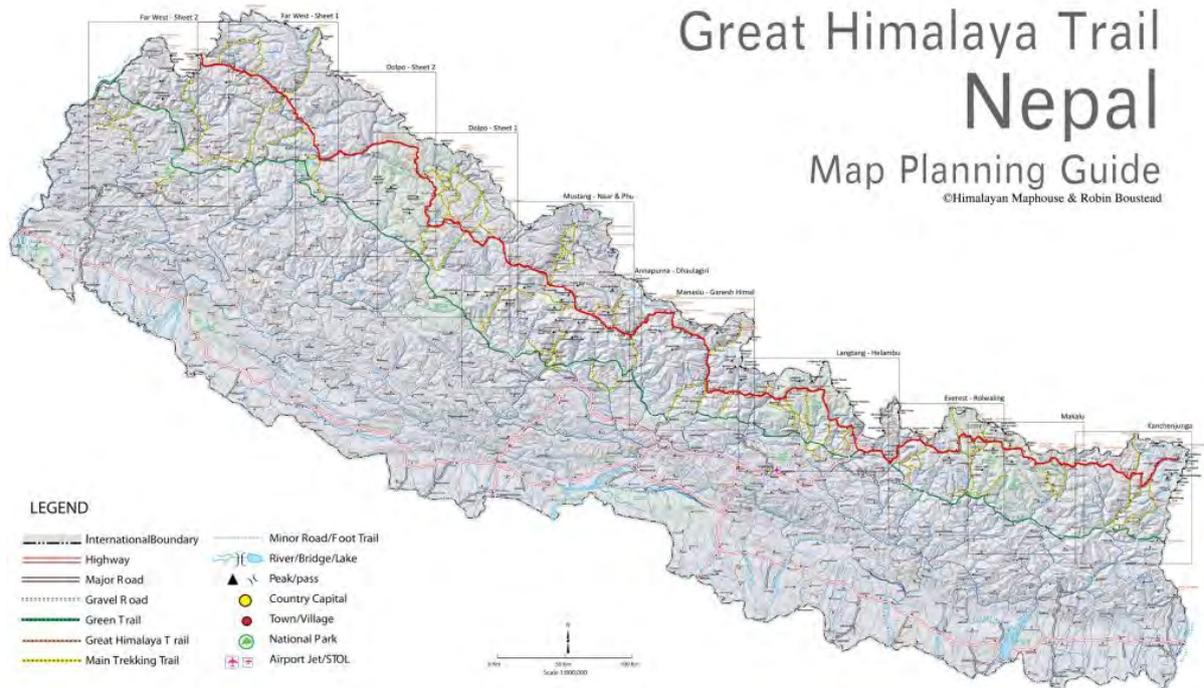
計 画 概 要

日本山岳会は 2025（令和 7）年に創立 120 周年を迎えます。記念事業の一つとして、2020 年春から 2025 年秋にかけて実施する、グレート・ヒマラヤ・トラバース（カンチェンジュンガ～K2 までの約 5000km 踏査）を企画しました。探検的ヒマラヤ登山の少なくなった現代にあって、これまで 80 余年の長きにわたって日本山岳会や多くの登山家がおこなってきたヒマラヤ高峰登山の足跡を辿りながら、ヒマラヤ地域の人と自然とその生活の変遷、地球温暖化による気候変動で崩れ始めたヒマラヤの今を検証する「温故知新」の踏査です。また、1 枚の地図から目的の山やコースを決め、自分たちの手で頂を極めるといふヒマラヤ登山本来の探検的登山を伝承する役割も担っていきます。

実施状況

第 I 期（2020 年春～2024 年春）

カンチェンジュンガ～マカルー～エベレスト～マナスル周辺を通過し、北西ネパールをインド国境に到るグレート・ヒマラヤ・トレイル（G・H・T）の踏査及び未踏峰・未踏ルート登頂



- 1st 2020 年 2 月 29 日～5 月 16 日：カンチェンジュンガエリア（パブクカン 6244m 試登）
- 2nd 2022 年 10 月 1 日～11 月 26 日：マカルーエリア（ティプタ・ラ、3 コルの通過）
- 3rd 2023 年 4 月 1 日～5 月 31 日：クーンブ・ロールワリン・ランタンエリア
- 4th 2023 年 10 月 7 日～11 月 25 日：ガネッシュ・マナスル・アンナプルナエリア（ナムン峠）
- 5th 2024 年 4 月 15 日～6 月 26 日：アッパードルポ・ムグ・フムラエリア（ロルン・ラ）

グレート・ヒマラヤ・トラバースを始めるにあたって

G・H・Tの発端は創立90周年の1995年に遡る。日本山岳会は未踏のマカルー東稜にチベット側から挑み、初登攀に成功した。登山終了後、次なる山を探すためラサからランドクルーザーでヤルツァンポー河岸を西へひた走り、パイクー湖を経て吉隆鎮の南に位置するネパールとの国境に向かった。その後、ネパールとの国境に近い道路をシッキムとの国境まで走り抜けラサに戻った。その時同行した読売新聞社の迫田泰敏記者から、「最終課題は何？」と聞かれて即座に答えたのが「ラウンドヒマラヤ」であった。92年に初登頂したヒマラヤの最東端にあるナムチャバルワ(7782m)からK2(8611m)までの国境をぐるりと周回する壮大な構想であった。

しかし帰国後は、96年の「日本100名山連続踏破」や「中央分水嶺踏査」「ラウンド琵琶湖」「四国分水嶺踏査」「近畿分水嶺踏査」「関西県境縦走」さらに、『新日本山岳誌』に掲載された約4000山を目標にした「チャレンジ4000」などの国内登山(ネパールやパキスタンでのトレッキングや2016年のナンガマリⅡ峰初登頂は別として)に明け暮れて、いつしかヒマラヤは遠い存在になっていた。

2017年副会長に就任し記念事業担当となった。山岳会創立120周年の記念事業を模索する中で頭に浮かんだのが、「グレート・ヒマラヤ・トラバース」であった。政治的な理由や地勢的な困難さでナムチャバルワからの出発はかなわなかったが、19年に実施したシッキム側からのカンチェンジュンガトレッキングが幕開けとなった。インドヒマラヤは東の端から西の端まで約2400kmにわたって連なっている。それらを忠実に横断するとなると200日近い日数を要するため、今回は下記のような計画とした。

文明と仏教の発祥の地インドでの48年ぶりの旅は、昨今の経済成長ぶりを目の当たりにするとともに、国境紛争や民族紛争、環境汚染の現実を垣間見る旅ともなった。

重廣恒夫

第Ⅱ期 2024 ポストモンスーン踏査概要

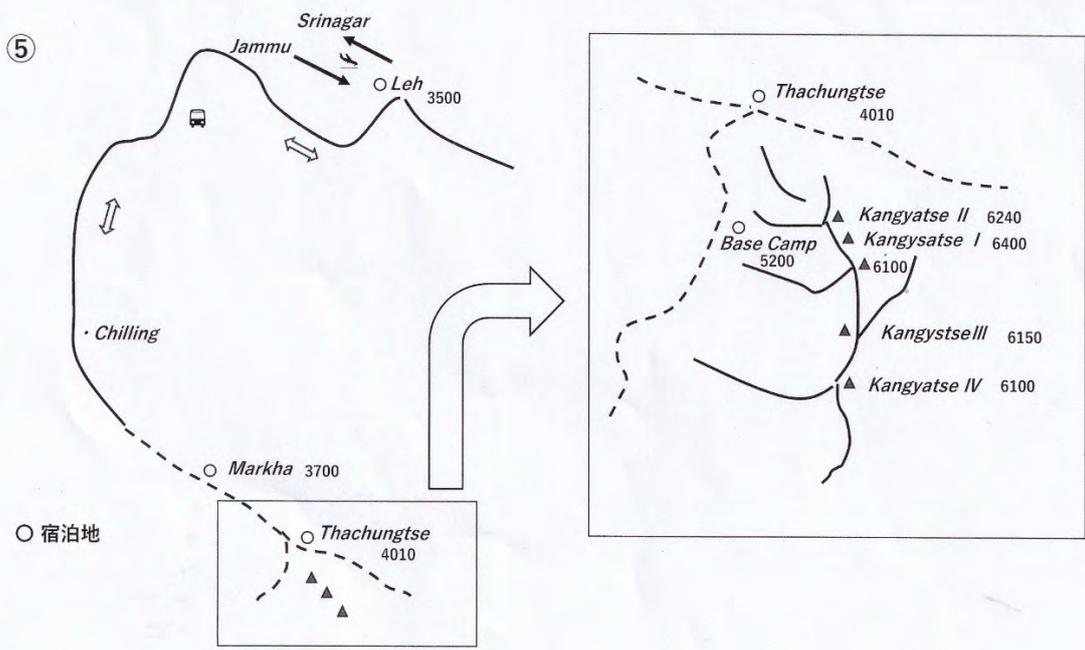
1: 山城 インドヒマラヤ

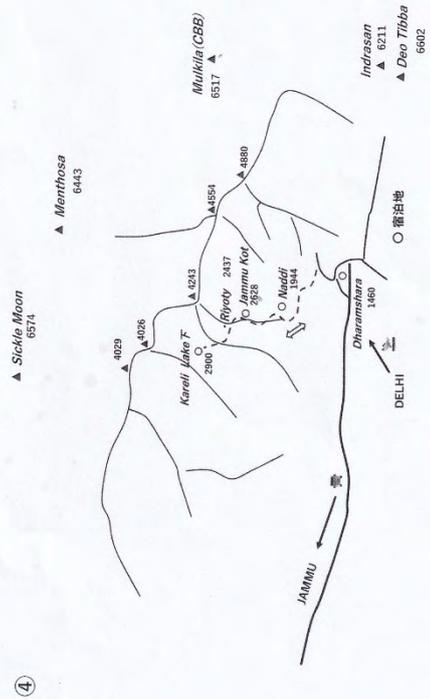
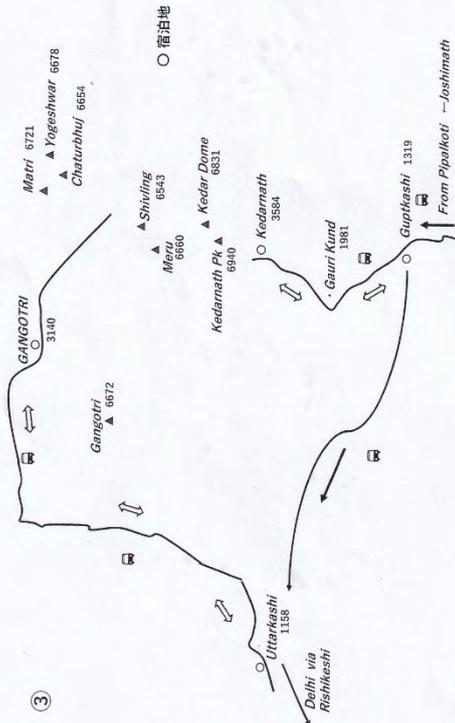
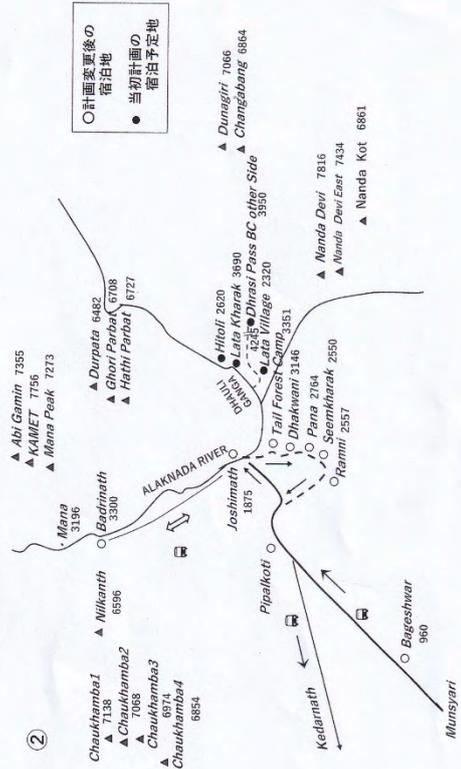
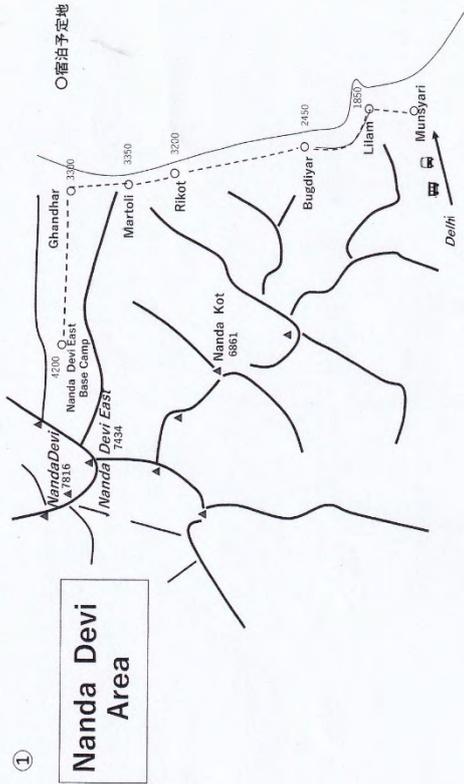
2: 目的 ガルワール・クマオンエリア踏査(ナンダ・デヴィの東・西からの接近)
ヒンズー教の三大聖地巡り
ダライ・ラマ法王14世の居住するダラムサラ訪問・カレリ湖
ラダック・カンヤツェⅡ峰 6240m 登山

3: 期間 2024年10月1日～11月25日

4: メンバー

| | | |
|--------------|--------|------------------|
| ・重廣恒夫(7931) | 関西支部 | 1947年10月11日(77歳) |
| ・吉井修(12342) | 関西支部 | 1961年3月4日(63歳) |
| ・飯田邦幸(12207) | 東京多摩支部 | 1954年9月1日(70歳) |
| ・中村三佳(16124) | 関西支部 | 1963年7月12日(61歳) |





踏査概要：

ガルワール・クマオンエリア（ナンダ・デヴィ東西周辺）踏査

10月1日～22日

デリーから電車と車を乗り継いでムンシャリまで移動。車道は細く曲がりくねっているが、日本の林道のように、道中ナンダ・デヴィとナンダコートが遠望できた。7日からナンダ・デヴィ東BCに向けてスタート。ナンダ・デヴィ方面は厚い雲に覆れていたが、11日夜半からナンダ・デヴィが現れた。翌日マルトリまで下った。1936年、日本人によるヒマラヤ初登頂となったナンダコツト隊も滞在した村である。

当初予定していたダランシ・パスルートは渇水期で水が無いため断念。代替のクアリ・パス(3720m)ルートは、遠い昔、ロード・カーゾン卿、ティルマンやシプトンも通過している。尾根筋からはナンダ・デヴィをはじめとしてチャンガバン、ドゥナギリ、カメットなど日本人が登頂した山々の展望が素晴らしかった。

ヒンズー教三大聖地巡礼

10月23日～11月3日

インド・ガルワールの最奥の村、マナ村を散策。バドリナート寺院を参拝した。ヒンズー教総本山ケデルナート寺院は、徒歩、馬、籠で参拝する人の数が一日数千人にもものぼると言われている。寺院に参拝する長蛇の列は途切れることなく、本尊を拝むまで5時間半もかかった。29日、ウッタラカシのネルー登山学校を訪問した。ガンゴトリ寺院は11月1日に閉門するため参拝客も少なかった。

ダラムサラ訪問

11月4日～11日

マクロードガンジではダライ・ラマ公邸を訪問し、チベット文化に触れた。インド人や欧米人が多く訪れるカレリ湖トレックを歩いた。10日は天候不良でフライトキャンセル、11日にレーに到着。現地ガイドと合流し、持参装備のチェックを受けた。

ラダック踏査（カンヤツェⅡ 6240m 登頂）

11月12日～24日

レーの街は、オフシーズンで閑散としていたが、ホテルが林立し、さらに至る所でホテル建設が行われていた。12日、晩秋のカンヤツェⅡ峰登頂に向けホテルを車で出発し、マルカ谷で下車。荒涼とした道を歩く。集落では民泊の案内が出され、シーズンには満杯になるという。14日、飯田は体調不良で下山し、その日のうちにレーまで下った。隊員3名は、BCに向かう。15日、午前中、高所順応を兼ねて5400m付近まで荷揚げをした。16日、午前1時、-20℃の中、重廣と吉井がガイド2名と共に山頂を目指してアタック開始。中村は、高度障害により夜が明けるのを待って下山し、その日のうちにレーまで下った。登頂隊は、12時半過ぎ登頂、18時過ぎにBCに戻る。低温下での長時間行動で重廣は両手に凍傷を負った。17日、タンチュンチェに下山し、18日にレーに下る。

ラダック地域では、空港のセキュリティ・チェックが厳しく、スリナガールの街では、銃を手にした治安部隊や警察官の姿が目立った。

詳細は「踏査だより」をご覧ください

| Great Himalaya Traverse (Fall 2024) | | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------|----|--|------|-------|--------|------|-------|
| No. | 曜日 | 行程 | 標高 | 峠標高 | 宿泊 | 距離(km) | 所要時間 | |
| 1 | 10月1日 | 火 | NRT (By Plane) Delhi | 300 | | H | 5800 | 10:20 |
| 2 | 10月2日 | 水 | Delhi | 300 | | H | | |
| 3 | 10月3日 | 木 | Delhi | 300 | | H | | |
| 4 | 10月4日 | 金 | Delhi~Kathgodam (By train) Kathgodam (By Car) Almola | 1651 | | H | 523 | 12:00 |
| 5 | 10月5日 | 土 | Almola (By Car) Munsyari | 2272 | | H | 190 | 7:30 |
| 6 | 10月6日 | 日 | Munsyari (Rest) | 2272 | | H | 6.4 | 2:00 |
| 7 | 10月7日 | 月 | Munsyari (By Car) Lilam (By Car) Ragari~Bugdiyar | 2438 | | T | 38 | 5:20 |
| 8 | 10月8日 | 火 | Bugdiyar~Rilcot | 3161 | | T | 16 | 7:30 |
| 9 | 10月9日 | 水 | Rilcot~Ghandhar | 3419 | | T | 14 | 7:10 |
| 10 | 10月10日 | 木 | Ghandhar~Nanda Devi east Base Camp | 3917 | | T | 5 | 4:30 |
| 11 | 10月11日 | 金 | Nanda Devi east Base Camp~Martoli | 3394 | | T | 14.5 | 8:50 |
| 12 | 10月12日 | 土 | Martoli~Nahar Devi | 2746 | | T | 18 | 8:45 |
| 13 | 10月13日 | 日 | Nahar Devi~Ragari (By Car) Lilam (By Car) Munsyari | 2272 | | H | 42 | 5:20 |
| 14 | 10月14日 | 月 | Munsyari (By Car) Bageshwar | 2320 | | H | 125 | 6:00 |
| 15 | 10月15日 | 火 | Bageshwar (By Car) Joshimath | 1896 | | H | 194 | 8:00 |
| 16 | 10月16日 | 水 | Joshimath (Rest) | 1896 | | H | | |
| 17 | 10月17日 | 木 | Joshimath (By Car) Auli~Tali Forest Camp | 3351 | | T | 23 | 7:20 |
| 18 | 10月18日 | 金 | Tali Forest Camp~Kuari Pass~Dakwani | 3146 | 3722 | T | 8 | 6:40 |
| 19 | 10月19日 | 土 | Dakwani~Pana | 2764 | | T | 9.3 | 7:00 |
| 20 | 10月20日 | 日 | Pana~Semkharka | 2633 | | T | 14.8 | 9:20 |
| 21 | 10月21日 | 月 | Semkharka~Ramni Pass~Ramni | 2557 | 3196 | T | 10 | 7:00 |
| 22 | 10月22日 | 火 | Ramni (By Car) Joshimath | 1892 | | H | 109 | 6:00 |
| 23 | 10月23日 | 水 | Joshimath (By Car) Badrinath~Mana~Badrinath | 3141 | | H | 52 | 5:00 |
| 24 | 10月24日 | 木 | Badrinath (By Car) Joshimath~Pipalkoti | 1391 | | H | 76 | 3:00 |
| 25 | 10月25日 | 金 | Pipalkoti (By Car) Guptkashi | 1447 | | H | 132 | 6:30 |
| 26 | 10月26日 | 土 | Guptkashi (By Car) Gaurikund~Kedarnath | 3555 | | H | 42 | 12:00 |
| 27 | 10月27日 | 日 | Kedarnath (Rest) | 3555 | | H | | |
| 28 | 10月28日 | 月 | Kedarnath (By Horse) Gauricand (By Car) Guptkashi | 1446 | | H | 44 | 7:40 |
| 29 | 10月29日 | 火 | Guptkashi (By Car) Uttarkashi | 1361 | | H | 215 | 9:30 |
| 30 | 10月30日 | 水 | Uttarkashi (By Car) Gangotri | 3077 | | H | 93 | 4:40 |
| 31 | 10月31日 | 木 | Gangotri (By Car) Uttarkashi | 1242 | | H | 95 | 5:00 |
| 32 | 11月1日 | 金 | Uttarkashi (By Car) Rishikeshi | 377 | | H | 168 | 4:30 |
| 33 | 11月2日 | 土 | Rishikeshi (By Car) Delhi | 300 | | H | 241 | 5:00 |
| 34 | 11月3日 | 日 | Delhi (Rest) | 300 | | H | | |
| 35 | 11月4日 | 月 | Delhi (By Plane) Dharamshala (By Car) McLeodganji (By Car) Naddi | 1767 | | H | | 2:30 |
| 36 | 11月5日 | 火 | Naddi (Rest) | 1767 | | H | 34 | 6:10 |
| 37 | 11月6日 | 水 | Naddi (By Car) Kareri Village~Jammukot | 2628 | | T | 42 | 5:20 |
| 38 | 11月7日 | 木 | Jammukot~Riyoti~Kareri Lake~Kareri Lake Camp | 2900 | ⇔2952 | T | 13 | 4:30 |
| 39 | 11月8日 | 金 | Kareri Lake Camp~Riyoti Village (By Car) Kareri Village (By Car) Naddi | 1767 | | H | 43 | 6:30 |
| 40 | 11月9日 | 土 | Naddi (By Car) Jammu | 386 | | H | 224 | 9:40 |
| 41 | 11月10日 | 日 | Jammu (No Flight) | 386 | | H | | |
| 42 | 11月11日 | 月 | Jammu (By Plane) Leh | 3448 | | H | 362 | 0:33 |
| 43 | 11月12日 | 火 | Leh (By Car) Chilling (By Car) Markha Campsite | 3757 | | T | 95 | 7:00 |
| 44 | 11月13日 | 水 | Markha Campsite~Thachungtse | 4230 | | T | 15 | 8:00 |
| 45 | 11月14日 | 木 | Thachungtse~BC | 5057 | | T | 6 | 5:00 |
| 46 | 11月15日 | 金 | BC (Acclimatization to High altitude) | 5057 | ⇔5429 | T | 4 | 3:40 |
| 47 | 11月16日 | 土 | BC~Mt.Kang Yatse II~BC | 5057 | ⇔6240 | T | 11 | 17:00 |
| 48 | 11月17日 | 日 | BC~Hankar | 3996 | | T | 13 | 8:00 |
| 49 | 11月18日 | 月 | Hankar (By Car) Chilling (By Car) Leh | 3448 | | H | 106 | 5:30 |
| 50 | 11月19日 | 火 | Leh (Sightseeing) | 3448 | | H | | |
| 51 | 11月20日 | 水 | Leh (By Plane) Srinagar | 1673 | | H | 233 | 0:55 |
| 52 | 11月21日 | 木 | Srinagar (Sightseeing) | 1673 | | H | | |
| 53 | 11月22日 | 金 | Srinagar (By Plane) Delhi | 300 | | H | | |
| 54 | 11月23日 | 土 | Delhi | 300 | | H | | |
| 55 | 11月24日 | 日 | Delhi~ | | | | 5800 | 6:50 |



ナンダ・デヴィ東B・C (3981m)



ナンダ・デヴィ主峰 (7816m) 西面



バドリナート寺院 (3141m)



ダライ・ラマ寺院



カンヤツェⅡ峰 (右) 6240m



頂上を目指して (16日 10:31)

皆様の暖かいご支援・ご声援ありがとうございました